

音楽に親しむ

長崎県、長崎県文化団体協議会が主催するながさき音楽祭2008の「やまびこコンサート」が9月16日、田代小学校で開催されました。

同音楽会は、日本トップクラスの演奏家などが演奏を行い、音楽分野の人材育成、県内音楽界の活性化および地域におけるにぎわいの創出を目的としています。

この日は、長崎大学教育学部で音楽を専攻している教授や学生など7人がバイオリンやクラリネットなどの楽器を紹介。集まった同校児童や地域住民約50人は、生演奏を聴いたり、一緒に合唱したりして楽しく音楽に親しみました。また市内では、志佐町の圓成寺でも「月あかりお寺コンサート」が開催されました。



福島で親子ふれあい体験

青少年健全育成「親子ふれあい交流事業」(教育委員会主催)が9月14、15日の2日間、福島町で開催されました。

この事業は、松浦市の子もたちとその保護者を対象に、さまざまな体験を通して、青少年の健全育成と家族関係の見直し、ふるさとである松浦市への郷土愛を育むため、宝くじの助成を受けて実施されています。

体験には、市内の親子55人が参加し、1日目には、伊万里湾クルージングや港釣り、土谷棚田の火祭りの見学、福島でのホームステイを体験。2日目には、福島歴史民族資料館と島内を見学し、世界的に有名な生物生態写真家の栗林さとし先生の講演を聴きました。



宝くじは
豊かさ築く
チカラ持ち。

宝くじは、広く地域に
普及されています。

まちの話題



夏休みに取り組んだ力作を展示 —松浦市子ども作品展—

第3回松浦市子ども作品展が9月19日から21日まで、文化会館で開催されました。

作品展は、市内小・中学校の児童・生徒に募った、夏休みの研究や課題などの作品を発表するものです。作品展には、北京オリンピックのメイン会場である愛称「鳥の巣」をストローなどで表現した作品や、発泡スチロールをシュロの樹皮で巻いた体長110センチもあるイノシシの置物などのほか、絵画、書、手芸など602点の力作が展示され、訪れた人は熱心に見入っていました。



燃油高騰で市に要望

新松浦漁業協同組合(板谷國博組合長)が9月19日、市役所を訪れ友広市長に要望書を手渡しました。

資源の減少や魚価の低迷などに加え、燃油価格高騰で漁業経営が深刻な状況にあることから、市に支援を求める要望をしたものです。

この日市役所を訪れた板谷組合長ほか10人は、漁協では事業の効率、能率化、事務の省力化など自助努力している。市としても全漁業者を対象とした直接補填補助制度の新設や認定漁協への支援措置ほてんなどを実施してほしいと要望しました。





第12回 鷹島町少年の主張大会

第12回鷹島町少年の主張大会(鷹島町青少年健全育成会主催)が9月29日、鷹島開発総合センターで開催されました。

意見発表を通して、青少年の意識に対する市民の理解を深めてもらい、子どもたちの健全育成を図ることを目的に毎年開催されています。

この日は、小・中学生、保護者、地域の人など多くの来場者が見守る中、小学生4人、中学生4人が日ごろ考えていることや夢などをテーマに発表。審査の結果、「バスで出会ったおじいさん」というテーマで発表した吉澤栞里さん(鷹島小6年)が最優秀賞に、木下のぞみさん(鷹島中2年)、岩添信也君(鷹島小6年)が審査員特別賞に選ばれました。

いつまでも安全運転で！ —高齢運転者体験型講習会—

高齢運転者体験型講習会が9月23日、ヒューマンスクール松浦で開催されました。

高齢者の交通事故が年々増加傾向にあり事故状況も多様化していることから、実践的な体験を通して運転講習会を行い、高齢者の交通事故防止の徹底を図ることを目的に毎年開催されています。

この日は、60歳以上の普通運転免許取得者25人が参加。機械を使って反応時間や動体視力の検査を受けたり、教習コース

を利用して運転の実習を行ったりしました。また、飲酒擬似体験ゴーグルを用いて飲酒時の歩行の困難さも体験しました。



海外からの石炭1億トンの到達！

九州電力松浦発電所(中西章夫所長)および電源開発松浦火力発電所(西山千里所長)の発電用海外炭の受入港である松浦港で9月23日、石炭受入累計が1億トンの到達しました。

松浦港での海外炭の受入業務は、港湾・揚運炭設備の管理運用を一元的かつ効率的に行うことを目的に、両社グループの出資により設立された西九州共同港湾(大森元紀社長)に委託されています。

同港では、昭和63年に海外炭を初めて受け入れてから約20年が経過。今回入港した石炭船「蒼龍丸」とブルーアイランド「BLUE ISLAND」の2隻同時揚炭中に石炭受入累計が1億トンの到達したものです。



参加店舗に認定書授与 —旬さば・松浦とらふぐまつり—

まつうら海鮮街道「第4回旬さば・松浦とらふぐまつり」参加店舗認定書授与式が9月25日、商工会議所で行われました。

まつりは、旬さば・とらふぐやその料理を、市内の宿泊・飲食店・鮮魚即売店を通して市内外に向けてPRし、地産地消の推進と交流人口の増加を図ることを目的として、まつうら海鮮街道実行委員会(小松英史会長)の主催で行っています。

この日は、まつりに参加する市内の宿泊・飲食施設、鮮魚販売21店舗の代表者などが出席。小松会長から認定書を受け取りました。

まつり開催は、旬さばまつりは10月1日から来年2月28日まで、松浦とらふぐまつりは10月1日から来年3月31日までです。



〔(仮称) 鷹島島の駅〕 建設工事安全祈願祭

平成21年3月完成を目標に進められている「鷹島肥前大橋(仮称)」開通後の新たな市内の交流拠点施設となる鷹島地域交流施設、「(仮称) 鷹島島の駅」建設工事安全祈願祭が9月29日、鷹島町の建設予定地で行われました。この施設は、地域物産販売施設、地域物産提供施設、イベントスペースなどからなり、完成後は「道の駅」登録が予定されています。

式には関係者約40人が出席し、工事の安全を祈願しました。同施設は、延べ床面積約650平方メートル。平成21年2月末完成予定で、橋の開通に合わせたオープンを目指します。

